

およそ1万2千年前に始まる縄文時代とそれに続く弥生時代は、1万年以上もの長い間続きました。これらの時代の遺跡から出土するさまざまな資料は、縄文人や弥生人が私たちに残したタイムカプセルであるといえます。私たちはそれらの資料から、当時の生活の様子を知ることができるばかりでなく、当時の人々の息吹さえ感じ取ることができるのです。

本展覧会では、県内及び日本各地の代表的な出土資料から、いにしえに生きた人々の生活を介绍するとともに、縄文・弥生時代の人々の豊かな感性に触れていただこうとするものです。

縄文時代は土器の出現によって始まります。土器の出現は、人々の生活を画期的に変化させました。そして、定住した集落、ムラが誕生しました。これにともなって、人々は生活に必要な多くの道具を自然の素材を巧みに利用するとともに高度な技術で作りますようになります。特に土器は、地域や時期により多様な造形のものが作られ、そこからは縄文人の豊かな感性や、たくましい生命力を感じ取ることができるのです。



国宝火焰型土器 十日町市蔵

弥生時代になると、本格的な米づくりが始まり、青銅製や鉄製の道具・武器が作られます。それらにとともに、人々のくらしも大きく変化し、弥生の村が誕生します。これら集落には縄文時代のムラとはちがいで、集落を守るために環濠をめぐらした村や、古代の都市国家とも言える大規模な村も出現しま

す。また、弥生時代の遺跡から出土する様々な資料からは、弥生人のくらしぶりや、弥生社会が急速に変化していく様子を窺うことができます。

兵庫県神戸市郊外の桜ヶ丘で発見された銅鐸には、様々な絵画が描かれています。中でも5号銅鐸には白と杵を使って脱穀をしている様子が描かれていて、当時の生活の一端を見ることができる貴重な資料です。



国宝桜ヶ丘5号銅鐸 神戸市立博物館蔵

本県には、縄文・弥生時代の遺跡が数多く存在し、明治12年(1879)に陸平貝塚が発掘調査されて以来、考古学的調査による資料が蓄積され続けてきました。特に近年は大規模な発掘調査の実施により良好な資料が数多く得られ、県域の縄文・弥生時代は一層明らかになりつつあります。

常陸大宮市の小野天神前遺跡では、再葬墓とよばれる墓坑から土器の棺が多数出土し、そのなかに人面の付いた壺が見つかりました。弥生時代の埋葬の様子を知る手がかりとなります。



県指定文化財 人面付土器 本館蔵

関連行事

- 講演会 平成18年10月22日(日)
- 講師 國學院大學短期大学 小林 青樹
- 縄文太鼓演奏会 平成18年10月7日(土)
- 美浦村立安中小学校
- その他、体験講座としてアングイン織りや勾玉作りなどを予定しています。

